

令和4年度
横須賀美術館 運営評価報告書
(一次評価)

令和5年(2023年)8月
横須賀市文化スポーツ観光部
美術館運営課

I 美術を通じた交流を促進する

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

[一次評価]

達成目標	実施目標
A	S

【達成目標】年間観覧者数 120,000 人以上

[目標設定の理由]

- ・「横須賀市立美術館基本計画」(平成12年6月策定)では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を10万人と推定し、年間観覧者数の目標としてきましたが、近年の観覧者数(平成29年度～令和元年度)は、いずれも11万人を超えています。
- ・令和4年度は開館15周年を迎え、運慶展等の多くのお客様を見込むことができる展覧会を開催することから、12万人を年間観覧者の目標とすることとしました。
- ・観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。

[一次評価の理由]

- ・年間観覧者数120,000人という目標設定に対し実績は、142,690人となり、達成率118.9%と目標を上回ったことから、「A」評価としました。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
観覧者数	151,431 人	48,827 人	91,809 人	142,690 人

	展覧会名	会期	見込(人)	実績(人)	達成率(%)
企 画 展	(令和4年度)ミロコマチコ展	4/1-4/10	4,000	5,211	130.3
	フランス・モダン・ポスター展	4/23-6/19	18,000	19,189	106.6
	運慶展	7/6-9/4	40,000	50,012	125.0
	猪熊弦一郎展	9/17-11/6	17,000	14,806	87.1
	スカジャン展	11/19-12/25	8,000	16,692	208.7
	第75回児童生徒造形作品展	1/12-1/30	14,000	14,613	104.4
	土方重巳の世界展	2/11-4/9	9,000	14,048	156.1
	所蔵品展のみの期間	上記以外	10,000	8,119	81.2
計			120,000	142,690	118.9

【実施目標】

- ・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。
- ・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。
- ・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。
- ・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。
- ・美術館のイメージアップにつながるようなTV放送、雑誌取材、プロモーションビデオ撮影などの商業撮影、取材を受入れる。

【目標設定の理由】

- ・横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市の観光立市の推進という観点からも重要になります。市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定します。
- ・広報、パブリシティ活動にあたっては、当館の利用者層や展覧会ごとのターゲット層に応じた効果的な広報を実施します。
- ・そのために、様々な広報媒体をその特性を踏まえて効果的に活用し、特に若い世代に対しては積極的にツイッターなどのSNSを活用していきます。
- ・Wi-Fi等を活用し、来館者に魅力的な情報提供、情報発信を促します。

【一次評価の理由】

- ・市長部局に移管となった令和4年度は、本市にもゆかりのある大河ドラマ「鎌倉殿の13人」にあわせ、観光部局と連携し運慶展に関連した能楽公演をはじめ、各種イベントを開催したほか、京急バスやドブ板通り商店街など民間事業者と連携したスカジャン展スペシャルチケットの販売、開館前の朝の時間を楽しんでいただくコンサートの開催などを積極的に行いました。また、テレビドラマやCM撮影など、影響力の大きな商業撮影を受け入れたことなどから、「S」評価としました。

《広報・集客促進事業》

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。

(1) 訴求活動による集客促進

- ・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース
- ・新聞、雑誌等の無料での情報掲載数は436件となり、目標の220件を1.98倍を上回る数字を達成することができました。

(単位：件)

媒体	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
新聞	136	99	130	157
雑誌	29	32	21	60
Web	54	57	76	72
フリーペーパー	34	60	105	103
書籍	0	10	6	1
会報誌	0	0	0	0
TV	22	13	11	13
ラジオ	4	8	2	15
その他	0	23	2	15
合計	279	302	380	436

- ・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信
⇒広報よこすかへの展覧会情報、美術館のイベント等の掲載
- ・公共交通機関への広告掲出
⇒京浜急行線 駅貼り（1週間）4回、窓上（4週間）1回
※ 運慶展、児童生徒造形作品展を除く各企画展で実施
※ 運慶展で窓上ポスター掲出1回実施
⇒京浜急行線 駅貼り（会期中随時）1回
※ 運慶展で満喫きっぷとのタイアップ実施
⇒京王線 新宿駅・渋谷駅など駅貼り（会期中随時）3回
※ 猪熊展以降、児童生徒造形作品展を除く各企画展で再開
- ・その他広告掲出
⇒京急線横浜駅サイネージ（スカジャン展）
JR横浜駅サイネージ（運慶展、猪熊展、スカジャン展）
新横浜駅サイネージ（運慶展、猪熊展、スカジャン展）
- ・SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラム）による有料広告
⇒猪熊弦一郎展、土方重巳の世界展、第4期谷内六郎展で実施
- ・番組制作
⇒ニコニコ美術館生放送（運慶展）

- ・美術系雑誌やタウン紙等、有料での情報掲載
⇒新聞、タウン紙、雑誌等での広告
 デイリースポーツ（スカジャン展）、はまかせ新聞（運慶展）
- ・プレスリリース配信
⇒PR TIMES（スカジャン展関連2件、恋人の聖地）
- ・インバウンド推進のための外国語情報発信の拡充
- ・⇒ホームページリニューアルによる多言語に対応（令和4年3月より本格運用）
 英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、ほか自動翻訳機能対応
- ・ホームページ、ツイッター、フェイスブック、インスタグラムを活用した情報発信
⇒桜、紫陽花、ネムノキなど、季節の花情報を追加・拡充し、観音崎地域の周遊を図る情報発信を行っています。
⇒美術館公式ツイッターの運用状況
 フォロワー数は16,865人で昨年度末14,827人より約2,038人増加しました。

【参考】2023年3月31日現在 フォロワー：16,865人

※ ツイッターは平成24年9月29日より運用開始

⇒フェイスブックの運用状況

（運用開始：谷内六郎館 平成27年7月31日～、横須賀美術館9月9日～）

2023年3月31日現在

横須賀美術館フォロワー：4,466人、谷内六郎館フォロワー：642人

⇒インスタグラムの運用状況

（運用開始：令和3年3月4日）

フォロワー：6,019人（2023年3月31日現在）

SNS毎の特性を活かした情報発信に努めていきます。

(2) イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進

- ・コンサート等、各種イベントの開催

実施日	イベント名	参加者
7/15	Monthly Welcome Music in July	44人
7/30	小笠原流 歩射演武	250人
8/6	弓の名手・三浦一族 流鏑馬体験	200人
8/15	Monthly Welcome Music in August	150人
9/15	Monthly Welcome Music in September	50人
10/1	オータムコンサート	100人
10/15	Monthly Welcome Music in October	50人
11/15	Monthly Welcome Music in November	50人
11/26	シーサイドジャズコンサート	390人

12/10	クリスマスコンサート	77人
12/15	Monthly Welcome Music in December	41人
1/15	Monthly Welcome Music in January	70人
2/15	Monthly Welcome Music in February	65人
3/15	Monthly Welcome Music in March	72人
3/25	スプリングコンサート	62人

(3) 外部連携の推進

①他部局との連携

- ・本市にもゆかりのあるNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」にあわせ、文化スポーツ観光部、教育委員会等と連携し「運慶展 鎌倉幕府と三浦一族」を開催するほか、運慶展に関連して能楽公演をはじめとする関連イベントを開催した。
- ・koyartプロジェクト 農業振興課と連携した「よこすか野菜のPR」
- ・Yokosuka Art Valler HIRAKU 連携ワークショップの開催
- ・観光課「よこすかカレーフェスティバル」「よこすかルートミュージアム デジタルスタンプラリー」「横須賀フォトコンテスト」「スカジャン×MEGURU プロジェクトウォーク」「ひつじのショーン サイクルスタンプラリー」への協賛
- ・観光課「ヨコスカ街なかミュージックライブ」(YouTuber けいちゃん、雅楽ライブ) の開催
- ・商業振興課後援「ヨコスカダウンタウン・キッズフェスティバル」への協賛
- ・文化振興課「ティボディエ邸 ハロウィンイベント」
- ・スポーツ振興課「シーサイドマラソン」
- ・企画調整課「よこすか海岸通りアートイベント」「謎解きまちめぐり」
- ・福祉総務課「ねんりんピックかながわ」
- ・米海軍横須賀基地在住者の誘致
⇒What's New in Yokosuka (市ホームページ内外国人住民向け情報ページ) への
の展覧会情報の掲載

外国人観覧者数 (H28年度から集計)

	西洋系	東洋系	その他	計
H30年度	676人	843人	93人	1,612人
R1年度	588人	963人	102人	1,650人
R2年度	243人	486人	30人	759人
R3年度	416人	641人	36人	1,093人
R4年度	451人	657人	70人	1,178人

- ・ふるさと納税へ商品提供

⇒観覧券+レストランアクアマール食事券の提供

②民間事業者との連携

- ・民間事業者との広報協力、イベント参加による情報発信
⇒タイアップメニュー（展覧会コラボレーションメニュー）

（アクアマレー、観音崎京急ホテル）

⇒広報協力（観音崎京急ホテル、湯楽の里、東京湾フェリー、ソレイユの丘 ほか）

⇒各種学園祭等のイベント協力によるPR（実践女子大学、慶応義塾大学ほか 14校）

⇒サンフジ企画、横須賀市観光協会への協賛

- ・福利厚生団体等との割引施設契約の実施

⇒JAF、JTBベネフィット、リロクラブ、神奈川県厚生福利振興会
神奈川県市町村職員共済組合 など

- ・京浜急行電鉄「よこすか満喫きっぷ」「三浦半島まるごときっぷ」への参加

種類／年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
よこすか	595人	1,050人	1,765人
三浦半島	2人	21人	35人

※「よこすか満喫きっぷ」はH29年7月、「三浦半島まるごときっぷ」はR2年10月参加

- ・運慶展にあわせた割引の実施（運慶展に出展の8寺「御朱印割」、トライアングル「軍港めぐり」「猿島航路」、三笠保存会・記念艦「三笠」相互割引、金沢文庫との相互割引、鎌倉殿の13人 大河ドラマ館・鎌倉国宝館・鎌倉歴史文化交流館の割引、ソレイユの丘相互割引

- ・スカジャン展にあわせたスペシャルバスチケットの販売（京浜急行バス、ドブ板通り商店街）

- ・NHK 横浜放送局との連携

⇒NHK 大河ドラマ「鎌倉殿の13人」オリジナルポストカードの配布、等身大パネルの設置

③近隣地域との連携

- ・町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加

⇒観音崎海岸清掃、近隣町内会清掃活動への参加

- ・観音崎全体の魅力を向上させるためのイベントの開催

⇒観音崎フェスタへのポスター掲出

- ・地域での消費活動を促進する取り組みの検討

⇒タイアップメニュー（展覧会コラボレーションメニュー）の実施

併設レストランアクアマレーで企画展、特別展にあわせて実施

⇒観音崎施設共通割引（観音崎京急ホテル、観音崎自然博物館、BEACH⇔PARK LIVING）への参加

⇒ koyart プロジェクト 大学研究室や企業との連携

- ・協賛企業の募集（展覧会に協賛（寄附）をしてくれる企業を募集）

⇒令和4年度応募実績：1社
 一般財団法人シティサポートよこすか（運慶展）

(4) 団体集客の推進

例年、団体集客の誘致やウェルカムトークなどを行っているが、令和4年度はコロナ禍の影響を受け、ほとんど営業活動等を行わなかった。

⇒観光課主催の観光商談会（R5. 1. 13）

【参考：例年行っていること】

- ・市内民間事業者と連携した旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致
- ・ウェルカムトークの実施

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数
募集型	5	154	2	44	39	1,160	99	3,648
その他	112	4,435	7	281	18	1,146	182	4,442
計	117	4,589	9	325	57	2,306	281	8,090

(5) 商業撮影の受入と誘致

- ・イメージアップと認知度の向上を目的に商業撮影を受け入れた。

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
撮影件数	9件	5件	40件	24件
使用料	323,476円	206,109円	3,026,225円	2,460,034円

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
F	F

【達成目標】 市民ボランティア協働事業への参加者数 延べ1,700人
(事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)

〔目標設定の理由〕

- ・活動者数および協働事業への参加者数は、「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標のひとつとなるものです。
- ・従来は、「参加者数延べ2,400人」を目標としていましたが、活動日数や開催予定の事業数等の縮小をふまえ、令和4年度の目標は「参加者数延べ1,700人」とします。
- ・ギャラリートークの再開は特に年度前半において、難しい状況が続くと見込んでいますが、研修等は可能な範囲で継続することとします。また、トークに代わる活動の可能性も検討します。

＊ギャラリートークボランティア登録者数 19名 (令和4年3月末時点)

- ・小学生美術鑑賞会ボランティアの令和3年度の活動は中止しましたが、令和4年度は、従来どおり、鑑賞会ごとにボランティアを配置する予定です。

＊小学生美術鑑賞会ボランティア登録者数 19名 (令和4年3月末時点)

- ・みんなのアトリエボランティアの登録者数は増加していますが、感染症の状況により、オンライン開催としています。令和4年度もオンラインと対面の併用を予定しており、活動機会は少なくなります。

＊みんなのアトリエボランティア登録者数 10名 (令和4年3月末時点)

- ・プロジェクトボランティアの活動については、感染症対策を行いながら活動を再開します。イベント参加人数の制限などにより、従来の参加者数には達しないものの、昨年度よりはそれに近くなる予定です。

＊プロジェクトボランティア登録者数 14名 (令和4年3月末時点)

〔一次評価の理由〕

令和4年度は、ギャラリートークボランティアの活動は、高齢者も少なくないボランティアメンバーの意向もあり、ほとんど実施できませんでした。小学生美術鑑賞会ボランティアの活動については、従来通り再開しましたが、コロナ前に取り組みはじめた対話による鑑賞は行えませんでした。みんなのアトリエボランティアについても

再開はしましたが、対面での活動数自体がコロナ前よりも少なくなっています。プロジェクトボランティアについては、年3回のイベントを再開。それに伴うボランティア会議等の活動も再開しましたが、いずれの活動においても完全な形では事業が行われていないため、判定不能としてF評価としました。

市民ボランティア協働事業への延べ参加者数 (単位：人)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ギャラリートークボランティア	345	中止	0	39 (*1)
小学生美術鑑賞会ボランティア	302	中止	10	106 (*2)
みんなのアトリエボランティア	38	中止	中止	8
プロジェクトボランティア ※	182	中止	15	279 (*3)
プロジェクト当日ボランティア	30	中止	中止	6
小計	897	0	0	438
ギャラリートーク参加者	403	0	0	0
ボランティアイベント参加者	1,308	0	0	563
小計	1,711	0	0	563
計	2,608	0	25	1,001

*1 ギャラリートークは中止しましたが、「第2期所蔵品展」「運慶展」「猪熊弦一郎展」「第3期所蔵品展」「スカジャン展」において、レクチャーを開催しました。

*2 小学生美術鑑賞会は年度途中から活動を再開し、ギャラリートークボランティアと共に、レクチャーに参加しました。

*3 イベントは年3回再開しましたが、人数制限をしたので、参加人数はコロナ禍前の半数程度となっています。

【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
- ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。

[目標設定の理由]

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボラン

ティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。

- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。
- ・ボランティア活動がより広がるよう、活動の周知や、ボランティアによる主体的な活動の充実に努めていきます。

[一次評価の理由]

活動休止が長期化するなか、ボランティアから再開を求める声も聞こえる一方で、高齢者や持病のあるボランティアからは対面活動再開への懸念が聞かれたため、内容によって再開できた活動、できなかった活動がありました。ボランティアイベントについては、制限がある中でもニーズに合った内容で工夫して再開できることができました。全体としては、完全な活動再開とはならず、F評価としました。

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす

[一次評価]

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】企画展の満足度 80%以上*

[目標設定の理由]

- ・ 展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。
- ・ 満足度は来館者へのアンケートによって算出しており、同じ方法の調査を継続的に行っています。またその満足度の内訳は「作品」「観覧料」「配置・順路」「解説」「心的充足」を計っていて、その総合数値を出しています。
- ・ ここ数年の数値の変化の経緯を総合的に判断し、目標を80%以上としました。

※ なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。企画展Aの観覧者数をA（人）、企画展Aの満足度をa（%）とすると、年度ごとの満足度（%）は

$$(A a + B b + C c + D d + E e + F f) / (A + B + C + D + E + F)$$

で表します。

[一次評価の理由]

目標の「80%以上」を超える90.9%という数値となりました。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
企画展満足度	90.0%	90.0%	92.7%	90.9%

企画展別にみると、「フランス・モダン・ポスター展」は「京都工芸繊維大学 美術工芸資料館」のコレクションから、近代ポスター創成期から、アール・ヌーヴォー、アール・デコの作品を中心に約110点を紹介した展覧会。「作品」が88.0%、「心的充足」が83.6%である一方「解説・順路」が73.1%でした。本展ではタイトルの説明をしたキャプションのほかに、一つ一つのポスターに何が描かれているかの説明パネル、作家パネルもつけていました。ですのでポスターそのものの説明より、ポスターが作られた時代

や街の背景の説明がもっと欲しいという意見かもしれません。

「運慶展」は、横須賀市内の寺院にある運慶の真作を含めて国指定重要文化財17軀を中心とした初めての仏像展。満足度が高かったのは「作品」94.9%、「心的充足」89.3%。また夏季の展覧会としては市民率が29.3%と比較的高かったです。展覧会内容や展示空間について評価が高かった一方、「解説・順路」は74.3%でした。市内の仏像が一堂に会する展覧会は、横須賀市の社会教育施設として初の試みだったことから、初めて仏像を鑑賞する人にもわかりやすい内容と、年齢にかかわらず読みやすい形式での解説を心がけましたが、不十分であったかもしれません。

「猪熊弦一郎展」は、2022年が所蔵作家の猪熊弦一郎の生誕120年にあたることから開催した回顧展です。丸亀市猪熊弦一郎現代美術館をはじめ、高松市美術館、香川県立ミュージアム、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館などから主要作品を借用し、猪熊の仕事幅広く紹介しました。満足度は「総合」93.7%、「作品」92.8%、「配置」91.0%、「心的充足」89.0%とおおむね高い中、「解説・順路」は82.5%と他より低くなりました。サイズの大きい作品が多くスペースに限りがあったため章解説、壁画やデザインの仕事、旧蔵品を中心に解説をつけましたが、さらに解説を望まれたため満足度が他に比べ低くなったと考えます。

「スカジャン展」は、横須賀を代表するアイテムである「スカジャン」の魅力を、テラー東洋が所蔵するヴィンテージ約140点を中心に構成しました。満足度が高かったのは「作品」94.1%、次いで「心的充足」89.0%など作品そのものに対する満足に加え、「配置」「観覧料」も80%を超えていました。「解説・順路」については76.6%で、1室、3室内の通路幅の狭さ、並びに動線のわかりにくさが原因かと考えられます。

「土方重巳展」は、多くのすぐれたキャラクターをデザインした土方重巳の回顧展。満足度が高かったのは「作品」95.3%、次いで「心的充足」91.0%「配置」90.6%、「解説・順路」も88.5%といずれも高い満足度を得ています。50代以上の来館者が約65%を占め、リピーターと初来館がほぼ半々となっており、多彩な仕事を紹介する関東初の回顧展であったことが新たな集客に結び付いたと考えられます。

毎年恒例となっている「児童生徒造形作品展」の観覧者の多くは出品された子どもたちの関係者であり、内容を批判する要素に乏しいことから、他の企画展と満足度を比較するには注意が必要ですが、総合的に97.0%と高い満足度を示しています。令和3年度以降、数値が上がっており、コロナを経て「本当に来たい人だけが来る」状況であることに加え、学校の活動が制限される中、展覧会を見られる喜びが数値を押し上げていると分析しています。

各項目についての総合での満足度を見ていくと、企画展では「作品」「心的充足」が80%以上の数値を出しています。一方「解説・順路」については数値のばらつきがみられます。

令和4年度はコロナの休館はなく年間を通じて展覧会を開催することができました。企画展の満足度は概して高かったため、達成目標をAとしました。

【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
- ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。
- ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。
- ・美術への興味や関心が深まる美術関連の資料（図書、カタログ等）を、図書室で収集・整理・保管・公開する。
- ・資料が探しやすく、快適に利用できる図書室環境を維持する。
- ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。

[目標設定の理由]

- ・社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかななくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月半から2カ月程度を目安とした年間6回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展及び谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催しています。
- ・さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。
- ・これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

[一次評価の理由]

4年度の企画展は、文化スポーツ観光部に移管してから初めての一年で、これまでない地域の文化財をご紹介する「運慶展」や「スカジャン展」に加え、フランスのポスター、質の高い近代美術、キャラクターデザインと多岐にわたるラインナップでした。

「フランス・モダン・ポスター」は、19世紀末から第一次世界大戦にかけて、豊かな「ベル・エポック」の華やかなポスター110点を紹介しました。親しみやすい内容でありつつ、ポスターデザインを体系的にみられるため、デザインを学ぶ学生など幅広い方から支持されました。

「運慶展」は、主に市内に伝わる三浦一族や鎌倉幕府ゆかりの文化財を、運慶仏も含めて約50点展示し、大好評を得ました。関連事業も数多く開催し、とりわけ三浦一族を題材とした能楽公演を美術館内で行い、大きな反響がありました。また大河ドラマ館や鎌倉国宝館、金沢文庫らと相互割引などの連携をはかり、市内、三浦、逗子、葉山、鎌

倉の公立校へチラシの全児童配布を行いました。

「猪熊弦一郎展」は、当館の単独自主企画で開催し、「猪熊弦一郎展 猫たち」(2018年)以来、関東では数年ぶりの猪熊展でした。《三人の娘》(当館蔵)に描かれたイームズチェアや三越包装紙「華ひらく」の題材になった石など猪熊旧蔵品をあわせて展示し、作品制作の背景にも注目しました。

「スカジャン展」はスカジャンそのものの魅力を伝えることはもちろん、地域の魅力発信や活性化に繋げることも目的としました。会期中、ドブ板通りとの連携、スカジャン割なども行ったり、観光課、商業振興課、企画調整課、児童図書館など他課との連携を通じて、展覧会の周知や魅力発信に努めました。

「土方重巳展」は絵本「ヤンボウ ニンボウ トンボウ」や、人形劇「ブーフーウー」など、子どものための仕事を原画やグッズで紹介しました。加えて戦前戦中に東宝で手掛けた映画のポスターや佐藤製菓のキャラクター「サトちゃん」など、多彩な仕事を一挙に集め、若い世代にも広がる好評を博しました。

所蔵品展では、会期ごとに特集を組み借用作品も加えて、より魅力のある展示となるよう努めました。

第1期は特集として、ふるさと納税を活用した基金によってはじめて購入した作品を紹介する「新収蔵記念：生誕150年 矢崎千代二展」と、横須賀ゆかりの漫画家である「小田扉の『横須賀こずえ』展」を開催しました。

第2期では、横須賀市にゆかりのある画家・井上文太の作品を特集展示しました。

第3期では、「つながるおもいー近年の寄贈作品から」と題して、開館15周年を機に、開館以降に寄贈された作品から主要な41点を展示しました。

第4期では特集として15年ぶりに当館が所蔵する清宮質文作品全90点を紹介しました。

谷内六郎館では、所蔵品展の会期と連動して、年4回の展示替えを行っています。1期は「おうち時間の愉しみ」、第2期は「子どもの遊び」第3期は「1950年代の谷内六郎」、第4期は「乗り物に乗って」の特集をそれぞれ組みました。

令和4年度は、開館15周年であり、また文化スポーツ観光部に移管した年でもあり、新たな視点での展覧会や、他課との連携を積極的に行いました。教育普及事業では動画制作・配信や対面での事業を時に併用しながら開催してきました。コロナ感染対策を講じながら、図書室運営も行ってまいりました。これらを総合的にみてA評価といたしました。

教育普及事業（一般向け）については、下表のとおりとなります。

対面型の事業を再開し、定員を減じるなどの感染症対策を行いながらも、一定の成果を上げることができました。

展覧会に関連したパフォーマンス等の実施

タイトル	実施日	参加者数(人)
「運慶－鎌倉幕府と三浦一族」展関連事業「小笠原流歩射演武」, 「弓の名手・三浦一族 流鏑馬体験」	7/30, 8/6	450
「運慶 鎌倉幕府と三浦一族」展開催記念「横須賀美術館 能「七騎落」	8/13	91
「PRIDE OF YOKOSUKA スカジャン展」関連事業業「横須賀美術館 シーサイドジャズコンサート vol.2	11/26	390

展覧会に関連した講演会等の実施

タイトル	実施日	参加者数(人)
フランス・モダン・ポスター展関連「京都工芸繊維大学美術工芸資料館のポスターコレクションーフランス・ポスターを中心にー」	4/23	18
「運慶－鎌倉幕府と三浦一族」展関連トーク「住職によるお寺と仏様のトーク1」	7/9	65
「運慶－鎌倉幕府と三浦一族」展関連トーク「住職によるお寺と仏様のトーク2」	7/18	60
「運慶－鎌倉幕府と三浦一族」展関連連続講座1「絵図からみる三浦一族と横須賀」	7/24	56
「運慶－鎌倉幕府と三浦一族」展関連連続講座2「運慶と三浦一族による造像」	7/30	56
「運慶－鎌倉幕府と三浦一族」展関連連続講座3「三浦一族本貫地の考古学ー衣笠・大矢部・岩戸地域の寺社と瓦を中心にー」	8/20	48
「運慶－鎌倉幕府と三浦一族」展関連連続講座4「夫婦共同祈願と母への思慕とー鎌倉時代の女性と仏教ー」	8/27	49
「運慶－鎌倉幕府と三浦一族」展関連トーク「集まれ仏像好き！ここだけの仏様対談」1	8/7	44
「運慶－鎌倉幕府と三浦一族」展関連トーク「集まれ仏像好き！ここだけの仏様対談」2	8/7	35
令和4年度第2期所蔵品展「特集：井上文太 Inspirations」関連事業井上文太アーティストトーク	7/17	28
「PRIDE OF YOKOSUKA スカジャン展」関連事業「スカジャン展 スペシャル対談」	11/19	40
「土方重巳展」関連講演会「父・土方重巳 娘から見た心おどるデザインの秘密」	2023/2/23	55

展覧会に関連した動画制作および公開（当館 YouTube にて公開）

タイトル	公開日	再生回数 (2023年6月 13日現在)
「フランス・モダン・ポスター展」監修者トーク	5/20	587
「猪熊弦一郎展」関連ギャラリートーク（全4編）	10/14-10/22 限定	2040
「運慶－鎌倉幕府と三浦一族」展関連事業「小笠原流歩射演武」, 「弓の名手・三浦一族 流鏑馬体験」（各1編）	2023/02/28	270

展覧会に関連したワークショップ等の実施

タイトル	実施日	参加者数(人)
「運慶－鎌倉幕府と三浦一族」展関連美術館坐禅会第1回「みほとけ坐禅会」	7/31	15
「運慶－鎌倉幕府と三浦一族」展関連美術館坐禅会第2回「初心者のための坐禅入門」	8/11	16

展覧会関連以外のワークショップ等の実施

タイトル	実施日	参加者数(人)
オトナ・ワークショップ「五感で感じる漆器+うるし基礎講座」	9/25 (午前・午後)	11
シネマパーティー2023 in 横須賀美術館『コロンバス』 (日本語字幕版)	2023/2/4, 2/5	47
「NATURE COLOR PICNIC 横須賀に自生する植物を使った染色を体験しよう」	2023/3/4, 3/5	23

他課との連携等

タイトル	実施日	参加者数
Koyart（農業振興課他と連携したマルシェ）	11/5, 11/6	994

図書室については、美術史・デザイン・建築・写真など幅広い分野の美術図書、展覧会図録、所蔵作家に関連する資料、子ども向けの美術入門書、定期購読雑誌などを収集・公開し、多くの来館者に利用されています。室内環境の整備・維持に努め、レファレンスサービスやコピーサービスに対応し、図書室の利用を支援しています。

④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する

[一次評価]

達成目標	実施目標
C	A

【達成目標】中学生以下の年間観覧者数 22,000 人

[目標設定の理由]

- ・子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするため、さまざまな取り組みを行い、その成否を観覧者数によって評価しています。
- ・特に春～秋には、子どもや家族層にも親しみやすい企画展を1つ以上開催することとし、目標達成のための契機としています。令和3年度は、夏季と春季に、それぞれ絵本作家としても実績のある2人の作家の個展「みみをすますように 酒井駒子展」「ミロコマチコ いきものはわたしたちのかがみ」展を開催し、家族・子ども層に向けた取り組みを積極的に進めます。

[一次評価の理由]

目標に対し76.6パーセントの達成率であったため、一次評価をCとしました。
学校連携事業の柱となる小学生美術鑑賞会は、すべての小学校で実施されましたが、一方で、個人ベースでの来館は、中学生以下のすべての年代で低調でした。令和4年度の観覧者総数は高水準であったことを踏まえると、展覧会による訴求が「大人」に集中し、子どもたちにはあまり魅力的に見えなかったのかもしれない。

中学生以下の観覧者数

(単位：人)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
幼児	12,636	1,484	3,244	3,039
小学生	14,814	3,210	9,000	10,831
中学生	4,023	1,093	2,081	2,971
計	31,473	5,789	14,325	16,841

【実施目標】

- ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。
- ・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。
- ・学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。
- ・美術館を活用した鑑賞教育がいっそう充実するよう、先生のための美術館活用講座をはじめ、教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。
- ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
- ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。

[目標設定の理由]

- ・観覧者数の面では、その年度の展覧会の内容に左右されがちな項目ですが、実施目標の面では、年間を通じた取り組みによって、展覧会の内容にかかわらず、子どもにも親しみやすい美術館であるとの評価が得られるよう努めています。
- ・子どもや家族層に向けた取り組みとともに、学校連携を重視しています。
- ・学校連携では、学校による美術館活用の推進、鑑賞を通じた言語活動の充実、校外での児童の作品展示（小中学校）など、図工・美術の学習指導要領を踏まえ、具体的な取り組みを進めています。また、教員のニーズを把握するよう努めています。
- ・学校とは違った美術館ならではのプログラムを提供し、子どもたちが美術に親しむ機会を拡充することも重要です。家族で参加できるワークショップなどにも力を入れていきます。

[一次評価の理由]

例年に比べ、子ども・親子向けのワークショップ等の回数はやや少なめでしたが、開催した事業では、一定の参加者を得ることができました。また、児童生徒造形作品展では、観覧者数14,613人と、例年並みの水準を回復しています。他の事業についても、感染症の影響を強く受けることなく、計画にもとづいて事業を展開し一定の成果をあげることができました。また、教育委員会と連携し、谷内六郎作品にちなんだ給食を提供するという新たな取り組みにも着手しました。以上の実績に基づき、一次評価をAとしました。

展覧会に関連した子ども・親子向け事業

タイトル	実施日	参加者数(人)
「PRIDE OF YOKOSUKA スカジャン展」関連事業「スカジャンの柄と刺繍を知ろう！ 解説&横振り刺繍見学会」	12/3 (3回)	50

令和4年度に開催したその他の子ども・親子向け事業

タイトル	実施日	参加者数(人)
中学生のための美術鑑賞教室	7/20～8/31 鑑賞ガイド配布 鑑賞教室5回	25人
野外シネマパーティー2022 in 横須賀美術館『シチリアを征服したクマ王国の物語』	9/10, 9/11	332
「横須賀の土でつくって焼こう！田浦和泉窯やきものワークショップ」	10/29, 10/30	63
おやこワークショップ「干支（寅）の絵付け教室」	11/23	25
親子向け「九谷焼絵付けワークショップ」	3/28	27
先生のための美術館活用講座	3/29	9
市立中学校の職業体験受け入れ	通年	8（4校受け入れ）
市立保育園8園対象の鑑賞プログラム	通年	112人（5歳児。1園中止）

令和4年度に開催したその他の学校連携事業（教育委員会食育課との連携事業）

タイトル	実施日	参加者数
谷内六郎にちなんだ給食メニュー提供と解説DVDの制作及び配布	12/1、12/2	市立小・中学校

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する

[一次評価]

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】 環境調査の実施（年2回）
美術品評価委員会の開催（年1回）

[目標設定の理由]

- ・ 作品収集は、美術館としての基本的な活動のひとつです。ただし、新規収集作品の数量の多寡は、状況に左右される部分が大きく、また、多ければ多いほどよい、という性質のものでもないため、数値目標とするにはふさわしくないと考えます。
- ・ 収集のための情報収集や調査を継続的に行っていれば、受け入れの可否を諮問するために美術品評価委員会を開催することとなります。ここでは、少なくとも年に1回、美術品評価委員会を開催することを、収集活動に関する数値目標とします。
- ・ また、収蔵庫と展示室の環境が作品の保管、展示に適しているかどうか調べる環境調査を、年2回実施することを、保管に関する数値目標とします。

[一次評価の理由]

環境調査について、5月9日～6月10日、7月19日～8月23日の日程で2回実施しました。

また、9月1日に当年度の美術品評価委員会を開催し、購入2点を含む15件20点の作品・資料について審議しました。

目標を達成したため、一次評価はAとしました。

【実施目標】

- ・ 収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
 - ・ 作品の保管、展示について適正な環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
 - ・ 計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
 - ・ 所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。
-

[目標設定の理由]

優れた美術品を広く収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、作品の保管、展示のための適切な環境整備と、作品そのものの修復及び保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響をじゅうぶんに考慮したうえで、可能な範囲で行っています。

[一次評価の理由]

令和4年度は、購入2点を含む作品・資料15件・20点を受け入れました。購入した2点は、いずれも地域にゆかりがあり、現在も活躍中である美術家2名の代表的な作品です。長沢明《Mother III》は、令和元年度の「長沢明展」、天野純治《field of water #19051》は令和2年度の「倉重光則・天野純治展」と当館の企画展で展示し、その際にも作品の魅力が広く認められたことから、受け入れにつながりました。

寄贈ではまず、現代日本を代表する日本画家である内田あぐり氏より、令和3年度の企画展「ビジュツカンノススメ」でも展示した大作をご寄贈いただきました。また、鳥海青児の傑作《石の街（インカ）》は、当館の戦後洋画コレクションの傾向によく合致するばかりでなく、それを大いに補強する存在です。そのほか、当館のコレクションの中軸となっている朝井閑右衛門、谷内六郎のそれぞれについて、人柄や活動の幅を知るために重要な作品・資料が寄せられました。

環境調査について、収蔵施設・1階展示室では、例年とほぼ同じ良好な結果が得られています。一方で、地下の展示室・ギャラリーでは、じゃっかんの昆虫類の侵入がみられました。また、今年7～9月に開催した「運慶展」で複数の重要文化財の展示を行うにあたり、慎重を期すため、6月29日から翌日にかけて、企画展示室内の殺虫・防虫を目的とした薬剤散布を実施しました。

修復・額装について、次年度当初に企画展を予定する朝井閑右衛門の作品について、優先的に修復や額の改修を行いました。また、今年度寄贈を受けた谷内六郎による紙作品を早期に活用するため、汎用額で展示できるようブックマット装を施しました。

他の美術館で企画された展覧会5件に対し、所蔵作品または寄託作品を貸し出しました。今年度は偶然、当館でお預かりしている寄託作品を貸し出すケースが多かったのですが、このような場合も、寄託者（所蔵者）と綿密に連絡したうえで、作品の保全を前提として貸し出しを行います。縦5m、横14mに及ぶ谷内六郎の大壁画を擁する苫小牧市へは、壁画の50周年を記念する谷内六郎展に対し、所蔵作品50点、寄託中の作品11点を貸し出しました。

多くのご厚志により、地域やコレクションに密接に関連した、優れた新収蔵品を受け入れることができました。これまでの企画展や所蔵品展を通じて、当館の活動がひろく認知され、支持されているためと真摯に受け止め、感謝とともに今後の励みにしていきたいと考えています。保管・展示環境の調査と維持、所蔵作品の保全と活用のための修復・額装についても、大きな問題なく計画的に進められていることから、一次評価をAとしました。

[次年度への課題]

- ・「美術品等取得基金」を活用した積極的な収集活動のため、中長期的な収集計画について検討します。
- ・収蔵品管理システムの更改に伴い、作品データベースの公開と、画像データの管理について方法を検討します。
- ・所蔵する作品の状態調査をさらに進め、適切な修復・額装を行います。

Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する

[一次評価]

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】

- ・館内アメニティ満足度 90%以上
- ・スタッフ対応の満足度 80%以上

[目標設定の理由]

- ・達成目標の適正基準として、それぞれ 90%以上、80%以上を設定しました。
この目標値は、過去の実績を参考に、目標を高く持ちつつも達成が決して不可能ではないと思われる数値であり、言い換えれば、目標値の達成イコールかなりの高水準を維持できていると思われる数値としました。
- ・満足度は、来館者アンケートの質問8項目（アクセス、館内印象、静かさ、スタッフ、休憩所、トイレ・授乳室、清潔感、総合）の内、外部要因や展覧会等の企画内容による影響を受けにくい2項目（スタッフ、総合）を指標として使用しています。
- ・館内アメニティ満足度については、来館者アンケートの質問事項「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごせた。」に対する満足度（総合満足度）、スタッフ対応の満足度については、来館者アンケートの質問事項「スタッフの対応・案内は適切だった。」に対する満足度を指標としています。
なお、原因を究明し改善に役立てるため、24年度から5段階評価に加え、「特によかったところ、よくなかったところ」を具体的に記述していただく欄を設けています。

[一次評価の理由]

館内アメニティ満足度、スタッフ対応の満足度ともに高水準で目標を達成しています。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
館内アメニティ満足度	93.5%	95.7%	95.8%	94.7%
スタッフ対応の満足度	88.1%	92.9%	93.2%	90.8%

館内アメニティ満足度に関して、「自然を活かした立地と建物、全体に調和がとれて居心地良い」などの、当館の環境についてのご意見を多くいただきました。

一方で施設の劣化は年々進んでおりますので、安全性と美観を維持し、お客様が気持ち良く過ごすことができるよう、改善に向けて今後も工夫を重ねていきます。

【実施目標】

- ・ 建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。
 - ・ 受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
 - ・ 運営事業者と協力して、附帯施設（レストラン及びミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。
-

〔目標設定の理由〕

- ・ 横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の一つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害などによる老朽化が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続していくことが重要です。
- ・ また、スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されますので、受付・展示監視スタッフ等の受託事業者との緊密な連携を図り、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。
- ・ 美術館を訪れた際の買い物や食事も、来館者の大きな楽しみです。レストラン及びミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねていきます。

〔一次評価の理由〕

（メンテナンス）

- ・ 本館屋根ガラスのシーリングの腐食により、雨漏りが発生することがあったため、劣化部分のシーリングの張替え修繕を実施しました。
- ・ 空調機器の冷水ポンプが故障したため、交換修繕を実施しました。

【令和4年度の主な修繕（100万円以上の案件を抽出）】

区分	案件	金額（円）
施設	本館屋根ガラスシーリング修繕	2,196,260
機械設備	空調用冷水ポンプ交換修繕	1,650,000

（清掃）

- ・ 日常の清掃について、利用状況に応じて重点を移す効率的な清掃を心掛けています。

（受付・展示監視）

- ・ 受付や展示監視に従事するスタッフは、来館者と直に接するためクレームの対象となりやすい立場にあります。特に展示監視は、展示物に触ろうとする来館者や迷惑行為をしている来館者への注意などを行うため、クレームを受けやすい業務です。

年に数件のクレームはありますが、受託事業者の自助努力（研修、スタッフの入替など）や、館内における情報の共有化の促進によって日々改善の努力を続けており、満足度の数値も一定以上の水準に達しています。

- ・情報の共有や、来館者への対応方法の指示などをきめ細かく行う目的で、来館者からのクレーム内容や対応の記録を日報として毎日提出するよう、平成21年度より展示監視スタッフに義務付けています。
また平成26年10月の受託事業者変更時から受付スタッフにも日報の提出を義務付けており、課題が生じた場合に迅速に対応する事ができるようにしています。
- ・現在の受託事業者においては、社内講師による研修や外部講師による接客マナー研修を実施するとともに、事業者独自の覆面調査員による接客チェックも行なわれており、その結果はスタッフ対応の満足度向上となって現れていると考えられます。

（ミュージアムショップ）

- ・利用者アンケートの満足度が向上するよう、定期的な打合せを実施し事業者と協力しています。

（レストラン）

- ・メニューの見直しなど運営事業者の自助努力により満足度はかなり向上しています。満足される理由としては、「質の高い食事」「おいしい」のほか、「景色がよい」ことも挙げられています。
- ・企画展ごとに、展示のイメージや内容に合わせた「コラボレーションメニュー」を考案して提供しており、好評を博しています。また、令和4年度は、谷内六郎〈週刊新潮 表紙絵〉展にあわせて、「コラボレーションドリンク」の提供も行いました。
- ・顧客のストレスを軽減するため、土日祝日の混雑時（12時～15時）については事前予約をとらず、先着順に対応しています。

（災害への備え）

- ・例年通り年2回の防災訓練を実施しました。避難経路の確認および誘導に重点を置いた実践に即した内容で、受付展示監視をはじめ事業者のスタッフも参加して充実した訓練となりました。

（その他）

- ・平成21年度より、毎月1回、レストラン、ショップ、受付展示監視、警備、広報、総務、学芸の参加による運営事業者連絡会議を開催し、館内で起こっている諸問題について情報共有、改善の提案、検討を行なっています。平成26年度からは設備日常監視業務の受託事業者も参加しています。

これらを総合的に勘案し、「A」評価としました。

⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】 福祉関連事業への参加者数延べ 60 人以上

〔目標設定の理由〕

- ・福祉関連の事業は、内容の充実を図るために対象や参加人数を限定する場合があります、そうした場合は参加者数が減ることとなります。しかし、限定したからこそ、対象の特徴に応じたプログラムの計画実施が可能となり、普段美術館を利用しにくい方でも参加することができる事業を行うことができます。
- ・このため、福祉関連事業は、その年の事業の性格次第で参加者数の増減が大きくなりがちです。
- ・また、事業の対象となる方が、感染症の影響を受けやすい状況であることが多く、対面型の事業形式を再開するには慎重な判断が求められます。
- ・そこで、事業の継続を優先し、当面は、非対面型事業への振り替えを積極的に行うこととします。
- ・以上のことから、従来目標値であった「福祉関連事業への参加者数 240 人」を、事業内容に応じて「60 人」に減じることとします。

〔一次評価の理由〕

令和4年度の福祉関連事業は、感染症の状況を鑑み、対策をした上で、障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」、大人の障害者を主な対象とした福祉関連イベント、託児を再開しました。目標値を達成したため、A評価としました。

福祉関連事業への参加者数

(単位：人)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教材制作 ※令和3年度～ (旧：福祉関連講演会)	48	中止 ^{※2}	点字版パンフレット(2種)制作	触察用作品レプリカ制作
福祉関連イベント	62	中止	中止	32
	14 ^{※1}		12	3
他館連携(MULPA)	中止 中止	8 ^{※1}	終了	終了
みんなのアトリエ	191	中止	中止	⇒動画

(障害児者向けワークショップ)		⇒動画	⇒動画	⇒(再開)54
託児	実施	中止	中止	実施
未就学児ワークショップ	—	※3	※3	※3
計	315	8	12	89

- ※1 令和元年度に、福祉関連イベント（1事業分）と他館連携事業の予算を合わせ、福祉作業所対象のワークショップ3回を企画しましたが、感染症対策のため、福祉作業所スタッフ向けワークショップ1回のみを開催しました。翌年の令和2年度は、前年度に開催した福祉事業所スタッフ向けワークショップの続きとなるワークショップを開催しました。
- ※2 感染症の影響を受け、海外から講師を招聘していた福祉関連講演会の開催が困難となりました。そのため、講演会についてはいったん中止とし、令和元年度以前の講演会記録の作成・公開を進めると同時に、事業費は視覚障害者のための触察教材制作に利用することとしました。
- ※3 未就学児ワークショップは令和2年度より年齢の枠を拡大し、④「学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する」に分類しています。

【実施目標】

- ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親んでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。
- ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。
- ・展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する。

[目標設定の理由]

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しむこと、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていくことが重要です。
- ・設備や什器を新規に導入することは難しいため、対話鑑賞のような人的対応によるプログラムを充実させることによって、福祉の充実につなげたいと考えています。
- ・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かします。
- ・子どもを持つ方が安心して美術館事業に参加できるよう、託児サービスを行っています。平成30年度より、託児の利用者数を目標値に含めないこととしましたが、託児は引き続き実施されます。乳幼児を持つ人が、それによって美術館利用を妨げられることのないよう、引き続き適切に託児を実施するとともに、そのための周知に努めることとします。

[一次評価の理由]

感染症対策を行いながら、障害のある方を対象とした事業や託児を実施することができたためA評価としました。

「みんなのアトリエ」は、年度前半は対面式ワークショップを中止していたため、自宅でできる創作活動をテーマとした動画を1つ公開しました（6月、再生回数261回）。10月からは対面ワークショップを再開しました（4回実施）。再開に伴い、新たな講師2名を加えて3名体制とし、嗅覚や触覚に重点を置いた活動を取り入れました。今後、活動の幅を広げていくことを考えており、その効果や課題を把握することができました。

福祉講演会は、海外からの講師招聘が困難なため中止とし、令和3年度より教材制作などを行い、これまでの福祉講演会で学んだことをふまえ、視覚障害者をはじめとする様々な来館者のアクセシビリティ向上を図ることとしました。令和4年度は、絵具の盛り上げが特徴的な朝井閑右衛門《薔薇（嘉靖青花唐子紋中壺）〈絶筆〉》のレプリカ（部分）を作成しました。次年度にこのレプリカなどを活用したインクルーシブプログラム（所蔵品の鑑賞+ワークショップ）を実施予定です。

福祉関連イベントとして、市内の作業所や福祉施設を対象としたワークショップを開催しました。障害のある方にふだん施設では体験できない新たな造形活動と出あってもらおうこと、スタッフに障害者の表現活動を見守る姿勢や環境づくりについて知ってもらうことを目的としました。参加者からは、貴重な外出の機会となったこと、施設で造形教室を中止したままになっているため、代替りの表現の場となり有難いといった意見が聞かれました。ニーズや課題を把握しながら、今後も継続していきます。また、横須賀市点字図書館のスタッフ（視覚障害者を含む）を対象とした調香ミニワークショップを実施しました。前述した、次年度実施予定のインクルーシブプログラムのための試行として開催したもので、これにより視覚障害者が取り組みやすい制作方法や道具を把握することができました。

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

〔達成目標〕 電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、過去2年間の平均値を目安とする。

〔目標設定の理由〕

- ・電気料、水道使用料は、美術館の総事業費の約2割弱を占めることから、達成目標を定め管理していく必要があります。
- ・職員が努力した効果を目に見えて感じることができるよう、電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数の平均値を目安とします。
- ・今までの目標は直近3年間の平均値としていました。しかし、令和2年度および令和3年度は臨時休館を実施し、参考指標とならないため、令和4年度の目標は平成30年度及び令和元年度の2年間の平均値としました。
- ・これらの使用量は、気候や来館者数等の外的要因によって大きく変動するため、個々の数値目標の達成にこだわるよりも、増減の原因分析をとおして状況把握に努めるための目安値とします。

〔一次評価の理由〕

	R01	R02	R03	R04 (目標)	R04 (実績)	達成率
総電気使用量(kWh)	2,569,838	2,186,586	2,454,236	2,597,524	2,622,276	0.99
水道使用量(m ³)	4,908	3,464	4,258	4,772	4,967	0.96
事務用紙使用枚数(枚)	240,000	188,200	179,000	233,250	208,000	1.12

電気使用量、水道使用量については目標数値を上回りました。「運慶 鎌倉幕府と三浦一族」等の企画展が好調で、多くの観覧者が来館したことによるポジティブな理由によるものです。

事務用紙使用枚数については、目標の使用枚数を下回りました。財務事務における電子決裁が導入され、システムによる業務の効率化が進んでいるものと思われまます。引き続き、用紙の裏面使用やフォーラム等の活用により、資料印刷を抑え、削減につとめていきます。

これらを総合的に勘案し、「A」評価としました。

【実施目標】 職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。

【目標設定の理由】

- ・サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。

【一次評価の理由】

- ・各業務の予算執行時には、複数業者からの見積書徴収や競争入札を行うなど、業務の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を執行し、経費削減を実現しています。

具体的な内容の主なものは、次のとおりです。

- ・事業者選定においては、定められた基準等により契約額及び契約先は入札によって決定します。特定の業者でなければ実施できない業務を除いて見積り合せを行っています。この結果、事業の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を実施しています。
- ・展覧会関連の出張については、スケジュールをまとめ、出張経路を最短に設定し、経費を削減しています。
- ・一部の案内パンフレットについては、印刷業務委託ではなく、手刷りで作成することで、より少ない経費で業務を執行しています。
- ・事務用品についても在庫の整理を実施しながら、必要な物の調達を行っています。

これらを総合的に勘案し、「A」評価としました。

【次年度への課題】

- ・電気使用量や水道使用量は天候や観覧者数等に影響される傾向がありますが、令和4年度は、展覧会が好調だったことや、電力契約が最終保障供給契約となったことなどにより、電力使用料等光熱水費が激増しました。施設管理や作品保存のために必要な光熱水費は削減が難しいですが、他方で職員の業務執行においては、不要な使用を控え、削減する意識を持ち続けるように、定例会議等で啓発を行います。
- ・業務執行において経費を節減することは当然ですが、同じ費用の中で最大限の効果を発揮できるように、計画段階や業務執行の中で継続して考えていきます。